

民族舞踊文化



No.28

2016年5月12日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLKDANCE

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F TEL 03-3583-3633
http://www.mayuzumi.or.jp FAX 03-3583-3639



2015年10月アジア民族舞踊交流会 杉並公演にて

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
理事長 加戸守行

皆様には、日頃から当財団の活動につき御理解と御支援とを賜わり、厚く御礼申し上げます。昨年は節目の年でありまして、当財団の設立30周年と財団創設者の黛節子の没後20年に当たり、例年のアジア民族舞踊交流会公演の終了後に、記念行事としてささやかなパーティーを開催し、次年度以降へ向けての決意を表明させていただいたところであります。

しかしながら、実を申し上げますと、当財団の活動の源泉ともいべきテナント収入につきまして、一部賃借人の又貸しに起因するトラブルにより家賃収入が滞る事態が生じ、困惑いたしております。トラブルの早期解決を期して努力を続けておりますが、このような事情をご賢察いただき、当面温かい御理解を賜りますようお願い申し上げます。

2015 アジア民族舞踊交流会

【日 程】

- 10月13日（火）インド シャクティ舞踊団 来日
10月14日（水）韓国 ユンスミ舞踊団 来日・リハーサル 会場：黛アート・サロン
10月15日（木）プレイベント（インド舞踊ワークショップ）会場：黛アート・サロン
10月16日（金）アウトリーチ 会場：群馬県太田市藪塚本町小学校 5年生 180名
10月17日（土）群馬公演 会場：群馬県太田市藪塚本町文化ホール（カルトピア）
10月18日（日）学習院公演 会場：学習院創立百周年記念会館
10月19日（月）休演日
10月20日（火）杉並公演 会場：セシオン杉並
10月21日（水）シャクティ舞踊団 ユンスミ舞踊団 帰国

【出 演】 インド シャクティ舞踊団

インド社会の底辺にいる農村の女性たちの能力をひきだし、地域のリーダーとして活動できる人材を育てるために、1990年にシスターチャンドラが設立した団体が「シャクティ」である。シャクティの活動の中心は舞踊や歌であり、伝統的な民族舞踊をもとにチャンドラさんが舞台用に演出し、さらに現代の女性たちの声を代弁する手段として歌や踊りを通じて、多くの女性や子どもたちの支援を行っている。

シャクティの舞踊公演は、地元のタミルナードゥ州のみならず、インド全土で人気を博している。メンバーは20歳前後の女性たち約10人～20人で、タミルナードゥ各地の伝統舞踊を主におどる。農村や漁村の民族舞踊の担い手から踊りを学び、民族舞踊として舞台上で上演している。過去にインドの外では、南アフリカ、日本（2008・2009）、アメリカ（2011）などでの公演がある。シスターチャンドラは2008年に日本の社会貢献支援財団から社会貢献賞を授与されている。

韓国 ユンスミ舞踊団

代表の尹秀美は韓国舞踊の創作分野の第一人者で世界的舞踊家金梅子率いる創舞会に1991年に入団して活動し、常任振付師として現在の創舞会を支える重要な役割を果たし、一方同徳女子大学舞踊科教授として在職しながら尹秀美舞踊団を率いて独創的な活動を展開し、韓国舞踊創作分野で新しい旋風を巻き起こし韓国舞踊界をより一層高める為の努力し、力を注いでいる。

尹秀美舞踊団は韓国伝統舞踊の分野、つまり巫俗（シャーマン）仏教、民族舞踊、宮廷舞踊を深く掘り下げ研究しこれらをパターンにした現代に通ずる舞踊に創作、研究に接目している。数多くの国内、海外公演によりその作品性、技量の高さが認められ、数多い受賞歴もあり、昨年上半期第28回韓国舞踊祭典にて最優秀作品賞を受賞し、韓国舞踊界での栄誉を与えられた。ある舞踊評論家からは尹秀美を指し第3世代の韓国舞踊界の光彩と褒め称えている。海外のダンスフェスティバルに招待され、日本、アメリカニューヨーク、スイスなどでも活躍した。

黛民族舞踊団

黛民族舞踊団は民族舞踊家黛節子により創設され、黛節子によって新たに復元創作された民族舞踊作品を上演してきました。過去には東京文化会館、日生劇場における公演の他、サウジアラビア、米国ノックスビル国際エネルギー博、中国昆明世界園芸博、パリ、ローマ等の公演に参加しました。

中国・韓国とも舞踊を通じての友好交流を深め、黛民族舞踊団は今後も、1986年に発足した黛民族舞踊文化財団の活動にあわせて広く世界に目を向けつつ、日本国内の民俗舞踊を題材にした創作舞踊の舞台公演を続けていくとともに、次世代を担う若者たちに民族舞踊の魅力を伝承する舞踊団を目指しております。

【スタッフ】 通訳：黒川 妙子（インド）

通訳：宇田川 郁子（韓国）

照明：井上 正美

音響：小林 史

舞台監督：八木 清市・松村 若奈

撮影：田中文太郎

【主催】 一般財団法人 黛民族舞踊文化財団

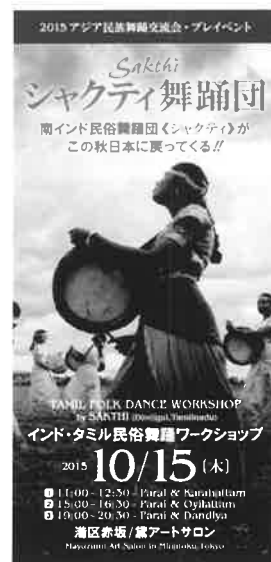
【共催】 一般財団法人 太田市文化スポーツ振興財団

学習院生涯学習センター

【後援】 文化庁

駐日韓国大使館 韓国文化院

インド大使館



アジア民族舞踊交流会

インド・韓国・日本 民族舞踊の出会い

インド
インド民族舞踊団
シャクティ

韓国
尹秀美舞踊団

日本
黛民族舞踊団

2015 10.17 土

午後2時30分開演【午後2時開場】
太田市蔵本町文化ホール(カルトピア)
全席指定席 500円

チケット発売
7月26日 発売 窓口 午前9時～ 電話予約 午後1時～
7月28日 発売 プレイガイド
7月28日 発売 各会場は太田市蔵本町文化ホールでの公演になります。
お席・一般 太田市蔵本町文化ホール・プレイガイド、1～10月（県民会館・文化施設）
お席・特別、インド・韓国、各会場に於いて、お席・特別

プレイガイド
太田市蔵本町文化ホール 0277-79-2222
太田市蔵本町文化ホール 0277-79-5111
太田市蔵本町文化ホール 0270-46-4864

お問い合わせ
太田市蔵本町文化ホール TEL 0277-79-0511 http://www.cultopia.jp/
〒379-2304 太田市蔵本町5-2

2015 アジア民族舞踊交流会

インド シャクティ舞踊団

韓国 尹秀美舞踊団

日本 黛民族舞踊団

10/18 日

学習院創立百周年記念会館（シンポジウム・舞踊公演）
シンポジウム開演：舞踊公演（学習院大学名誉教授）
開場 12:30 シンポジウム 13:00～14:00
舞踊公演 14:20～16:20
料金：入場無料（定員1,000名）

10/20 火

セシオン杉並（加賀公園）
開場 18:00 開演 18:30
料金：入場無料（定員500名）

出演：黛民族舞踊団／ユン・スミ舞踊団／シャクティ舞踊団
【主催】 一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
【共催】 学習院生涯学習センター・一般財団法人 太田市文化スポーツ振興財団
【後援】 文化庁・駐日韓国大使館文化院・インド大使館
★お問合せ
黛民族舞踊文化財団 事務局 TEL03-3583-3633 FAX03-3583-3639
E-mail info@mayuzumi.or.jp ホームページ http://www.mayuzumi.or.jp

10月13日（火）【インド／シャクティ舞踊団来日】

15：55 インド・シャクティ舞踊団 12 名 成田着出迎える

20：00 黛アートサロン着

長旅にもかかわらず、元気に現れたインド・シャクティ舞踊団員たち。成田から赤坂に移動し、黛アートサロンに荷物を運び入れる。翌日からのスケジュールの確認、その後夕食。

シャクティ舞踊団員たちは、10月の日本の気温が寒く感じると言っていました。やはりインドは暖かい国だからなのでしょう。夕食を終え、赤坂のホテルに宿泊。

10月14日（水）【韓国／ユン・スミ舞踊団来日 合同リハーサル】

09：55 韓国 ユン・スミ舞踊団 12 名 羽田着出迎える

17：00 黛アートサロンにて、舞台スタッフ立ち会いのもとリハーサル

20：30 赤坂の和食店で歓迎食事会

インド・韓国・黛と、総勢 34 名で顔合わせ。本番通りの流れで、リハーサルを行いました。インドと韓国は、太鼓や笛のダイナミックな生演奏があり、本番さながらの臨場感に圧倒されました。稽古場の隅に電気ストーブを発見、このストーブは寒さしのぎではなく、太鼓の皮を温める為に使用していました。衣裳替え・舞台転換・照明と音響の打合せを行いリハーサル終了。その後、赤坂の和食店で歓迎会と称して、皆で食事を楽しみました。

10月15日（木）【インド／シャクティ舞踊団ワークショップ】

10：00 シャクティ舞踊団、黛サロンに到着。

11：00～12：30 第1回目ワークショップ

15：00～16：30 第2回目ワークショップ

19：00～20：30 第3回目ワークショップ

21：30 群馬公演用に荷物をトラックへ積み込み

黛アートサロンにて、インド舞踊のワークショップ開催。シャクティ舞踊団指導のもと、インド舞踊の特徴ある手先の動き、足の使い方等を体験。参加者の皆さんは、試行錯誤しながら楽しそうに踊っていました。第1回目終了後、本格的インド料理での昼食会になりました。稽古場の床に座り、バナナの葉っぱを皿代わりにして、野菜のカレー、野菜の煮物、ヨーグルト味の和え物、しょうばい魚の煮物などを、インド式に手の指を使って食べました。我々も一緒にインドスタイルで食べるものの、手の指だけで食べるのは意外と難しく、不思議な体験でした。シャクティ舞踊団たちは上手に食べていました。彼女達は、「ご飯とヨーグルトがあれば大丈夫よ」と、ご飯にヨーグルトをつけて美味しそうに食べていました。

2回目・3回目のワークショップも、盛況のうちに終了。その後、藪塚公演用の荷物をトラックに積み込む作業が、夜中まで続きました。

10月16日（金）【群馬県太田市へ移動・小学校訪問】

07：40 海外組ホテル出発 赤坂見附駅から浅草駅へ

08：40 浅草駅出発 群馬県太田市へ

10：50 藪塚本町小学校にてアウトリーチ

15：00 藪塚文化ホールにてリハーサル

19：00 藪塚温泉にて太田の皆さんと懇親会

海外組は、早朝から群馬県太田市へ電車にて移動。インドと韓国の舞踊団による小学校訪問（アウトリーチ）、黛からは、黛莉香が参加しました。藪塚本町小学校体育館に於いて5年生184名が、各国の舞踊を舞踊家と一緒に踊りました。海外の舞踊家に興味深々の子供達、振付の実演や説明がある度に歓声が上がり楽しさを身体いっぱい表現していました。

最後は、生徒とインド・韓国メンバーでのソーラン節の総踊りで、大盛況のうちアウトリーチを終えることが出来ました。子供達にインド・韓国に対して自由な発想を与えることが出来たと思います。

終了後は、藪塚文化ホールにてリハーサルを行い。その後、ホテルふせじまへ移動し、太田市文化スポーツ振興財団の方々を迎えスタッフ共々懇親会を行いました。



インド舞踊、スティックダンスの指導風景



ユンスミ舞踊団の実演披露



生徒に混ざって、ソーラン節



太田の皆さんとの懇親会風景

10月17日（土）【藪塚文化ホールにて公演】

08：40 黛民族舞踊団員 浅草から太田市へ出発

11：00 黛民族舞踊団リハーサル

12：30 フィナーレリハーサル（インド・韓国・黛）

14：30 本番

16：30 終演

19：16 藪塚発りょうもう48号で帰京

20：55 浅草着

黛民族舞踊団は、午前中に東京から藪塚文化ホールへ移動し、リハーサル。その後、インド・韓国を交えて、フィナーレのリハーサルを行いました。

藪塚公演は、今年も300名を上回る多くのお客様にご来場いただきました。これもひとえに、太田市文化スポーツ振興財団の方々のお力添えの賜です。舞踊家たちも一層の思いで舞台に立つことが出来ました。フィナーレも演者総出演で、素敵な公演初日を迎えることが出来ました。



藪塚公演 フィナーレ



終演後、お客様を見送る出演者たち

10月18日（日）【学習院公演】

09：15 楽屋入り

10：00 場当り

13：00 シンポジウム（パネリスト：諏訪春雄・丸茂美恵子）

14：20 本番

16：20 終演

舞踊公演に先立ち、13時よりシンポジウムが開催されました。パネリストに学習院名誉教授 諏訪春雄先生、日本大学教授 丸茂美恵子先生を迎え、各舞踊団の代表共に「舞台に立つまで」をテーマに、それぞれの解説、実演を交えての有意義な1時間でした。今後も、この様な環境を沢山提供できればと思います。

シンポジウムの後は、いよいよ本番です。学習院生涯学習センターの協力もあり231名の皆様にお集まり頂きました。シャクティの女性たちが繰り出す躍動感、ユンスミ舞踊団の抑揚たっぷりの表現、黛の日本各地の特色ある踊りで会場内が民族舞踊の熱気で溢れた公演となりました。

我々は常々、公演時にアンケートにご協力頂いております。

今回は、インドや、韓国の打楽器や管楽器の生演奏に対し、黛の録音音源が迫力にかけるという内容が多く見られました。次回の公演では、黛も生演奏の演目を盛り込めるよう努力したいと思います。

その他多様のご意見、ご感想を頂きました。ご協力頂いた皆様方の貴重なご意見に感謝いたします。

10月19日（月）【休演日】

海外組は、来日してから初めてのお休みです。浅草や渋谷で観光を楽しんだようです。

10月20日（火）【セシオン杉並公演】

「2015 アジア民族舞踊交流会」も、最終日を迎えました。皆元気良く楽屋入りし、ウォーミングアップをしたり、開場前のロビーで寛いだりと、本番までの時間を過ごしていました。楽屋では、最後の公演日ということもあり、お互いにこれまでの感謝の気持ちと、今日も張り切っていきましょうと声を掛け合う姿が見られました。

今回の公演は、はじめての杉並区での公演ということ、平日の火曜日ということもあり集客に対する不安を抱えておりました。私たちは、杉並区の200箇所の掲示板にポスターを貼り、通常の3倍の3000枚のチラシを配布し、多くの皆さんに足を運んで頂きたいと願いながら準備をしてきました。また、入場無料、整理券なしといった形で行ったため、来客数が計れないということもありました。

そんな中、18時に開場し、出だしは好調だったものの500席ある客席は中々埋まらず、92名のお客様と共に千秋楽を迎えることとなりました。主催の立場として空席が目立つ客席に対し、出演者の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。民族舞踊を伝える活動として、このような結果ではいけないと痛感いたしました。今後活動を継続させるにあたり課題の多い公演となりましたが、これが現実なのであり、この状況を真摯に受け止め、これからも知恵を出し合い、多くの方に認知して頂ける価値のある公演活動を目指したいと思います。

この日、このような状況の中でも舞踊家たちは見事に舞上げました。ご来場頂いた皆様からの拍手に勇気を頂きました。これからも民族舞踊の魅力を活かし、演者と観衆が一体となれる公演活動を一丸となって取り組んでまいります。次回の「アジア民族舞踊交流会」を楽しみにしてください。

10月21日（水）【インド、韓国舞踊団 帰国】

海外組の帰国の日となりました。午前中にホテルをチェックアウト。昼食を含めての自由時間。それぞれに羽田空港へ。いよいよお別れの時、インドの団員が帰りたくないと言きべそをかいていたのが印象に残りました。こちらも切ない気持ちになりましたが、日本を気に入ってくれた彼女の気持ちががとても嬉しく思いました。出国の時間がそれぞれ20分違いだったため韓国組を見送り、すぐにインド組の見送りであつという間のお別れとなりました。

アジア民族舞踊交流会、そして、黛民族舞踊団を通じて、民族舞踊の継承、発展に貢献出来ますよう、これからも邁進いたす所存です。ご協力頂きました皆様、御来場下さりました皆様、そして応援して下さいる皆様に、感謝申し上げます。



沢山の楽器と共に帰国の途へ



名残り惜しさに、抱き合う姿も

2015 年アジア民族舞踊交流会 セシオン杉並公演写真

(プログラム順) 撮影：田中文太郎

◆第1部◆

1. 韓国 ソル杖鼓舞(ソルチャンゴチュム)



2. インド パライアッタム paraiattam



3. 黛 伊予万歳(いよまんざい)



4. 韓国 太平舞(テピョンム)



5. インド オイラッタム oyilattam



6. 黛 博多節(はかたぶし)



◆第2部◆

7. 黛 津軽じょんがら節(つがるじょんがらぶし)



1. 韓国 太平簫シナウィ(テピョンソシナウィ)



2. 韓国 小鼓舞(ソゴチュム)



3. インド サンタル民族のおどり dance of Santals



4. 黛 原体剣舞連(はらたいけんばいれん)



5. インド ダンディヤ・スティックダンス Dandiya



6. 黛 谷茶前の浜(タンチャメのハマ)



7. 韓国 舞神明(チュムシンメイ)



8. インド カラガム壺のおどり karagattam



9. 黛 牛深ハイヤ節(うしぶかはいやぶし)



フィナーレ 牛深ハイヤ節 総踊り



黛民族舞踊文化財団 設立三十周年記念



ごあいさつ

この度、平成27年10月18日アジア民族舞踊交流会公演終了後、椿山荘において、ささやかではありますが「黛民族舞踊文化財団 設立三十周年記念」の会を開きました。

黛節子先生が築かれたこの財団が、三十年という節目を迎えることが出来たのも、偏に皆様方のお蔭と感謝申し上げます。

これからも当財団理事長をはじめ、お世話になっております皆様方と、踊りを受け継いだ我々が一願となって前へ進んでゆきたいと存じます。温かくお見守りください。

黛民族舞踊文化財団
事務局長 黛 莉香

群馬県太田市立藪塚本町小学校 5年生の皆さんとの記念写真



平成 27 年 10 月 26 日アウトリーチ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

一般財団法人黛民族文化財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和六十一年三月文部大臣から設立を許可された団体です。財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および東南アジア諸国の民俗芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し（将来は資料館を設置して一般の利用に供することを計画しています）また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これらの舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民俗芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育てまいるよう、財団の事業目的を御理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申しあげる次第です。つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申しあげる次第です。

黛民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、賛助会員とは、この法人の主旨目的に賛同して入会くださった個人・法人（団体）の方々の名称です。

二、会費寄付の内容は下記の通りです（但し、年間会費として扱わせていただきます。）

ア、個人の場合	個人会員	五千円以上
	特別個人会員	十万円以上
イ、法人の場合	法人（団体）会員	十万円以上
	特別法人（団体）会員	百万円以上

三、賛助会員の特典

ア、特別会員（個人・法人）

1. 年一回以上公演全の切符御一名様御招待
2. 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、会員（個人・法人）

1. 年一回以上公演全の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書を御記入の上、御返送いただきたく存じます。賛助会員会費寄付申込書は、当財団宛てに御請求くださいませ。領収書は銀行にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

【平成 27 年度賛助会員（順不動）】

石上春江 岩瀬 敬一郎 奥山章雄 加戸守行 北川太一 諏訪春雄 花柳壽輔 黛琉美
水落潔 山崎邦昭 山下洋子

民族舞踊文化 No.28 2016 年 5 月 12 日発行 発行人 加戸守行 編集 黛民族舞踊文化財団事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂 3 丁目 10 番 3 号 黛ビル 4 階 MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO
一般財団法人 黛民族舞踊文化財団 THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
TEL 03-3583-3633 FAX 03-3583-3639 ホームページ <http://www.mayuzumi.or.jp>